



TITLE:

長週期景氣循環に関する一研究

AUTHOR(S):

菊田, 太郎

---

CITATION:

菊田, 太郎. 長週期景氣循環に関する一研究. 經濟論叢 1927, 24(3): 594-600

ISSUE DATE:

1927-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128512>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號 三 第

卷四十二第

行發日一月三年二和昭

## 論 叢

廣告稅論

教授 法學博士

神戸 正雄

ミルの社會學概念

講師 文學博士

米田 庄太郎

露西亞の新經濟政策と農業

教授 法學博士

河田 嗣郎

土佐の百姓一揆

教授 經濟學士

黒 正 巖

## 時 論

支那問題管見

教授 法學博士

末廣 重雄

## 說 苑

ブルゲン氏の諸社會主義評論

教授 法學博士

田 島 錦治

琉球の慶長役以後

教授 法學博士

山本 美越乃

## 雜 錄

日銀指數利用の一指標

講師 經濟學士

蜷 川 虎三

伊太利のリラ貨引上策について

經濟學士

松岡 孝兒

長週期景氣循環に關する一研究

經濟學士

菊田 太郎

梅雨考

教授 法學博士

財部 靜治

# 長週期景氣循環に關する 一研究

菊田 太郎

モスコウ大學のKonrad教授は最近“*Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik*”誌に“*Die langen Wellen der Konjunktur*”を公けにしてゐる。景氣循環に關する一研究として注目すべき論文である。

景氣循環論なるものは經濟學史上可なり古き歴史を有してゐる。併し經濟學發達の初期に於ては、景氣循環中恐慌のみが専ら學者の注意を惹き、恐慌以外の時期は殆んど顧られなかつた。近時に及んで、景氣循環の全過程を考察の

對象とし、その規則性並に週期を確め、進んで將來の景氣豫想を可能ならしめんとする研究が、漸く盛となつた。而してその研究は經濟統計の提供する材料を基礎とするのが普通であつて、經濟統計の重要な一應用部門と見做し得るのである。かゝる研究は北米合衆國に最も盛であるが、英獨その他にも見るべきものあり、本邦に於ても次第に多きを加へて來た。<sup>2)</sup>

景氣循環論に屬する諸問題の内、週期は最も重要なものの一である。從來普通の見解に依れば、先づ週期の有無によつて單なる景氣變動と景氣循環とを分ち、次に週期の如何によつて景氣循環を更に季節的變動と狹義の景氣循環との二に區別する。而して狹義の景氣循環は大凡十年を週期とするものと見るのである。

之に對し、近時 Kitchen は約三年半を週期とする景氣循環を説き、茲に紹介せんとする Kondratieff は約五十年を週期とする景氣循環ありと論するのである。

Kondratieff は先づ資本主義的組織を採る經濟

社會の變動が極めて複雑なものであつて、從來說かれて來た七乃至十一年を週期とする景氣循環以外、別に長短種々の景氣循環が存在することを述べ、次にこれまで景氣變動の單なる傾向 (trend) と考へられてゐたものの中に、長週期の景氣循環が存在することを論證し、且つ長週期景氣循環の性質を略記してゐる。研究方法として分析抽出方法を用ふるが故に、謂ふ所の長週期景氣循環の意義に就いては周密なる吟味を要するけれども、その研究は景氣變動乃至は經濟發達の實情を理解するに當つて、重要な一見解たるを失はない。依つて以下順を追つて Kondratieff の所説を検することとする。

## 二

景氣循環に長週期を有するものが存在するか否かを明にせんとする研究には、現在大なる障害がある。第一に研究の性質上長期間に亘る觀察を必要とするに拘らず、信用するに足る材料、同質性比較性を有する現象は、十八世紀の末工業的資本主義勃興以後に得られるのみであ

- 2) Babson; Business Barometers. Mitchell; Business Cycles. Moore; Economic Cycles. Persons; The Problem of Business Forecasting.
- 3) 勝田學士; 財界學。財部博士; 經濟循環期論 (經濟論叢第八卷)、福田學士; 經濟的豫見論 (國民經濟雜誌第三六卷)
- 4) Kitchen; Cycles and trends in economic factors (Review of Economic

る。第二に十八世紀末以後に於ても、十九世紀中葉までには、資料の缺けてゐる時期があるから、資料の蒐集完全なるを得ない。その結果比較的信用すべき英佛の資料を主として用ひた。

次に研究方法に移る。經濟的事實は變動の態様により分つて二種類とする。一は随時の動搖以外に上昇又は下降の傾向を有しない(少くとも觀察期間を通じて)事實で、商品の價格は之に屬する。この種の事實に關しては分析なる統計學上最も基本的方法を用ひる。

他は社會經濟生活の規模が一般的に變化するのと關連して、個々の變動以外に一定方向へ(通常上へ)の傾向を有する事實である。之に屬するものは更に、(一)純價值的な事實、例へば資本利子、勞賃、銀行預金、(二)價值的など同時に自然的な事實、例へば價格で表示された外國貿易額、(三)全然自然的な事實、例へば工業的生產或は一定商品消費のためにする支出、の三種に分れる。この種事實に關する統計資料を其の儘

用ひるとすれば、長週期循環は全く現れないか、或は現はれても極めて不明瞭となる。故に資料を適當に處理する要がある。

その手段として第一に用ふべきは人口で除算することである。これ人口で除算すれば、社會の眞の變化を現はす曲線を一層詳密に規定するを得ると共に、佛國の如く觀察期間中に國土の廣狹を生じた場合にもその資料に比較性を賦與するからである。併しながら根本資料を人口で除算して得られる系列も未だ純粹ではない。即ちその系列は、一定速度を有する發展の一般的傾向(所謂 secular trend)と、此の發展の加速度的の二要素を含んでゐるからである。長週期の景氣循環を明ならしめるためには、原系列を人口で除算した上に、尙は一般的傾向の影響を消去しなければならぬ。かゝる處理を施して後始めて得られる系列を、原系列に對して理論的系列と稱する。

以上の方法により理論的系列を發見した上で、各年の原系列と理論的系列との間に生じる

Statistics. Vol. V., N. 1, 1923)

- 5) 勿論資本利子、物價、勞賃等について此の手續を施すのは不可能であり、同時に不必要である。
- 6) Persons; An index of general business conditions (Review of economic statistics, 1919, S. 81) 及び A non technical explanation of the index

歪を決定する。年々の歪を示す座標を連結するときは、一の曲線を得る。此の曲線は各系列發展速度の變化を現はすこととなる。もしある系列の一般的傾向が一定の方向（通常上向）を有し、且つ循環が存在しなければ、發展速度の變化換言すれば加速度は、一の變量となり、景氣の變化を反映する。従つて長週期の存否を確めるためには、此の歪の系列を検すればよい譯である。

但し、此の系列には長週期のみならず、中或は短週期循環乃至は偶然的な變動（もしありとすれば）までも含まれる。従つて長週期の景氣循環のみを明にするため、九年間の移動平均を用ひる。蓋し、これによつて平均九年を週期とする中週期循環の影響を排除すると共に、短週期循環及び偶發的變動の影響をも消去し得るからである。

### 三

上述の方法により Kondratieff は、(一)物價水準、(二)資本金子、(三)勞賃、(四)外國貿易額、(五)石

雜錄 長週期景氣循環に關する一研究

炭の生産額及び消費額、六鐵及び鉛の産額、以上の六事項に就き長週期循環の存在を確めて、六個の結論を得てゐる。

(一)、十八世紀末以來の右事實の變動は長週期循環の存在することを示す。この循環が用ひた研究方法に伴ふ偶發的結果でないことは、比較的に重要な事實の循環が略々同一週期を有するによつて明白である。

(二)、上昇又は下降の一般的傾向を有しない事實(例へば物價の如き)の長週期循環は波狀の上下となり、かゝる傾向を具ふる事實のそれは、上昇(又は下降)速度の増減となつてゐる。

(三)、各事實の長週期循環は全然と云ひ得ないまでも、次表の示すが如くに、著しい一致を示してゐる。

國及び事實	第一循環			第二循環			第三循環		
	上昇の初期	下降の初期	終期	上昇の初期	下降の初期	終期	上昇の初期	下降の初期	終期
佛國	1817	1823	1843	1873	1883	1903	1913	1923	1933
一般物價	1817	1823	1843	1873	1883	1903	1913	1923	1933

of general business conditions (Review of economic statistics, 1920, S. 38 ff.)

- 7) Lenoir, Études sur la formation et le mouvement des prix, 1913. S. 65ff  
8) Persons; a. a. O.

[illegible]

第二十四卷 五九八

第三號  
一五四

3 石炭產額	4 棉花栽培面積	獨逸	全世界 <sup>10)</sup>	1 銑鐵產額	2 石炭產額
一八七五	一八四四	一八一	一八七五 <sup>13)</sup>	一八七五 <sup>11)</sup>	一八七
一八八六	一八八三	一九五	一八八五	一八八四	一八八六
一九〇八	一九〇五		一九〇五	一九〇四	一九〇四

(四)、長週期景氣循環につき、變化時點の精密な測定を斷念し、五―七年の誤差を許容することせば、循環の限界は大約次の如くである。

## 第一循環

上昇期	一七八〇年代末或 一七九〇年代始	一八一〇年乃至 一八一十年
下降期	一八一〇年乃至 一八一七年	一八四四年乃至 一八五一年

下降期  
一八七一年  
一八五一年

## 第二循環

上 昇 期	一八四四年乃至一八五一年	一八七〇年乃至一八七五年
下 降 期	一八七〇年乃至一八七五年	一八九〇年乃至一八九六年

下降期  
一八七五年  
一八九六年

### 第三循環

上昇期	一八九〇年乃至一九一四年乃至一九二〇年
下降期	略々一九一四年乃至一九二〇年に始る

下降曲に始る

(五) 上に研究した事實の變動については長週

增新

燕麥栽培面積については他事實とは逆の循環をとる。

一八三九年に今一つ谷あり。

一八三七年及び一八五五年に同上。

一八八一年に今一つ峰あり。

期循環を認め得るけれども、あらゆる事實につき長週期循環ありとは云ひ得ない。かゝる循環を有しない例には、佛國に於る棉花消費量、北米合衆國に於る羊毛及び砂糖の産額、その他がある。

(六)、上に明にした重要經濟事實の長週期循環は國際的な現象であつて、歐洲に於る諸資本主義國家間にあつては循環の期間もよく一致してゐる。

#### 四

右の結論は資本主義的經濟生活變動の特徴を構成する統計的系列の研究によつて得たものである。

他而史料を基礎として經濟生活社會生活一般に關し長週期説を建てることが可能である。史料の吟味等は之を後日に譲り、此の説の要旨中長週期循環の存在を證し、その社會史經濟史に於て有する意義を明にするもの若干を選んで、以下に略説する。

(一)、現實には長週期景氣循環は中週期景氣循環と合して一變動を成す。併し中週期循環は長週期循環の存在するがために、一定の歪を受け

る。研究の結果によると、長週期循環の上昇期には中週期循環中に好況の年が多く、下降期には不況の年が多い。<sup>10)</sup>

(二)、長週期循環の下降期には、農業が顯著な且つ永續する不況に襲はれるのを例とする。奈破翁戰後、一八七〇年代の始、這般の大戦後、何れも然り。<sup>11)</sup>

(三)、長週期循環の下降期中には、生産手段交通手段に關する發明發見が特に多い。而してその結果は次の上昇期に至り始めて實用化せられるのである。

(四)、上昇期の始には、金の産額が増加し、又新地方特に植民地が世界的經濟交通に参加するため、世界市場の擴大を見るのが常である。

(五)、重要にしてしかも大規模な戰爭又は社會的紛争は、多く長週期景氣循環中の上昇期に生じる。

13) 一八八三年に今一つ谷あり。

14) 一八八二年に同上。

15) 全世界に關する系列は人口にて除算せず。

16) Spiethoff; Krisen (Handw. d. Staatw. 4. Aufl.)

17) Ernie; English farming past and present, 1922 及び Warren and Pearson; The agricultural situation, 1924



彼は引續いて長週期景氣循環が中週期のそれに劣らない規則性を有することを力説し、最後に、長週期景氣循環が資本主義に内在せる原因に基かずして外部の偶然的事情に因すと考へる見解に對し、かゝる誤解は因果の顛倒又は必然を偶然と見るより來るとて、一々例示の上自説を擁護してゐる。